



鎌倉の和賀江嶋

まだ5月だというのに真夏のような日差しが突き刺さる暑い日、40周年を記念する和賀江嶋清掃活動にご招待をいただき、20人ほどの北上市民と共に参加させていただいた。この活動と北上市との関わりは和賀江嶋と和賀氏とのつながりによる。

和賀江嶋は、鎌倉市材木座海岸にある日本に現存する最古の港湾遺跡である。1232年、鎌倉幕府の許可を得て築港された、主に木材の積み降ろしのための港であるが、今は崩れた石積みが湾に突き出て、干潮時にだけ見ることが出来る。和賀の名前の由来は、大正13年に、鎌倉町青年団によって建てられた碑によると、材木座になる前の地名が「和賀」だったことによるものようだ。また、築港に協力した執権北條氏の家臣団の中に和賀氏につながる人物がいたとの言い伝えもある。鎌倉市の市章はご存知、笹竜胆。和賀氏の家紋も笹竜胆。国の重要無形文化財鬼剣舞が胸に付けている家紋も笹竜胆である。地名、家紋いずれも何らかのつながりがあるものと推量されることから、和賀氏に関わりの深い市民がこの活動に関わり始めたようである。

和賀江嶋清掃活動40回
市民や交流団体ら430人が参加

鎌倉市材木座海岸の東端に位置する国指定史跡「和賀江嶋」の清掃保全活動が5月22日に行われ、約430人が参加した。写真は、40回目の今年、例年の倍を超える約430人が参加。住民や商店会、鎌倉岩手県人会(早川正行会長)、和賀江嶋築港に奥州の和賀盛綱が関わった縁で1995年から参加している岩手県の北上市和賀江嶋清掃団(佐藤克英代表)も参加した。



鎌倉市材木座海岸の東端に位置する国指定史跡「和賀江嶋」の清掃保全活動が5月22日に行われ、約430人が参加した。写真は、40回目の今年、例年の倍を超える約430人が参加。住民や商店会、鎌倉岩手県人会(早川正行会長)、和賀江嶋築港に奥州の和賀盛綱が関わった縁で1995年から参加している岩手県の北上市和賀江嶋清掃団(佐藤克英代表)も参加した。